

氏名	長 東 崇 仁		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1405 号		
学位授与の日付	昭和58年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	骨膜下顎骨離断術後の骨新生に関する組織化学的研究		
論文審査委員	教授 田辺剛造	教授 小川勝士	教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

顎口腔外科領域において、腫瘍や外傷などにより下顎骨を外科的に離断あるいは切除を余儀なくされることがある。その際、骨膜下顎骨離断術後骨新生されることは知られているが、詳細に組織化学的検索を行ったものはみられていない。そこで著者は、幼若家兎を用い骨膜下顎骨離断術を行い、顎骨が再生される過程および Ca・Fe 投与の影響を X 線学的、病理学的および組織化学的に観察した。実験動物は 1.5kg 前後の家兎を用い、動物は 4 群に分け、第 I 群は骨膜下顎骨離断術後無処置のまま放置し対照とした。第 II 群は Ca 投与、第 III 群は Fe 投与、第 IV 群は Ca と Fe を投与した。観察期間は術直後、3 日目、7 日目、14 日目、21 日目、30 日目、60 日目、90 日目とした。

結果は、X 線学的に第 III 群に 3 日目より淡い X 線不透過像が出現し、術後 7 日目では第 I 群以外で X 線不透過像が現われ、術後 14 日目以降では全群に X 線不透過像が認められた。以後経日的に X 線不透過性を増していた。病理学的および組織化学的には、第 III 群、IV 群で術後 3 日目にすでに Ca の沈着、Fe 反応がみられ、造骨組織の誘導が認められ、経日的に骨形成も旺盛であった。すなわち Ca および Fe 投与により Ca 沈着が著しく促進され、仮骨形成がかなり早くから始まり骨形成が促進されるのが認められた。

論文審査の結果の要旨

本研究は家兎を用いて骨膜下顎骨離断術後の骨新生に関し Ca と Fe の全身投与を行い、それによる骨再生の過程を経時的に観察したものである。X 線学的、病理学的および組織化学的検索において、Ca および Fe の投与で骨再生が著しく促進され、特に投

与例では軟骨の形成が強く，これが骨組織に移行する状態が観察されたとし，骨再生の過程に一知見を加えたものとして医学博士の学位を得る資格があるものと認める。